

レクリエーション実技科目におけるニュースポーツ種目の導入と学生の志向性に関する研究 —健康・スポーツ科学科の学生を対象とした基礎検討—

中 村 哲 士
(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)

Research on Introduction of New Sports in Recreation Practice and Student's Orientations — Basic Research Intended for Students of Department of Health and Sports —

Tetsushi Nakamura

*Department of, Health and Sports, School of Letters
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Abstract

The purpose of the research is clarification of the intention change into new sports. This time, it is a target to obtain basic material of the continuance research.

The results were summarized as follows:

1. The club belonging rate was 60%, and the club independence rate was 40%. At the level of the game, most people were high-ranking levels of the university students in Japan.
2. The experience of the past was very little.
3. The amount of the movement was different depending on the length of "Time to walk" and "Stop time". The game was different by the presence of the opponent. All members showed a high tendency in the understanding level.
4. The characteristic of new sports that influenced the orientation was "It was a few people system", "Big power is not needed", "The moving range is a little", "Tools are not large scale", "The amount of the movement is comparatively large", "There is continuance", and "A moderate game is possessed".
5. The hint of teaching was able to be offered by one class.

緒 言

昨今、国民のレジャー、レクリエーション、スポーツに対するニーズは、時代の変遷とともに多様化の一途をたどっている。特に、健康志向の高揚とあいまって、レクリエーション活動やスポーツへのニーズの高まりは、目を見張るものがある。生涯にわたって定期的にスポーツや運動を実施することは、今や、日本人にとっての必然と言っても過言ではない。

生涯スポーツや健康・体力づくりとしてのスポーツへの関わり方は、①生涯1種目を継続的に実施する、②ライフステージに応じて適当なスポーツ種目を選択実施する、③ときどきに自分の好むものをつまみ食いの的に実施する、の3通りのケースが考えられ、レクリエーションが有する機能の「気晴らし」「自己啓発」のいずれかが満足されるよう実施されているようだ。実際に実施されているものは、レクリエーション的なスポーツから高い競技性を有するスポーツまで、その幅は非常に広いといえ、近年は、その幅の広さをカバーするかのようになニュースポーツの台頭がめざましい。

ニュースポーツは、既存のスポーツ(競技スポーツ)の対応できない部分を補完することでスポーツ・

ライフを豊かにしていこうという側面と、時としては競技スポーツの特性を内包するであろう側面があることが確認できる¹⁾ことから、年齢・性別・志向を問わず多くの人たちから支持され、スポーツ人口の増加に影響を与えている。しかし、スポーツ嫌いの克服等の若年層への効果を指摘した研究²⁾がある一方で、各種イベントや競技会を対象とした調査からは、ニュースポーツの実施層は中高年から高齢者層に集中しているという報告³⁾もされているのが実状である。国民全体としても、レクリエーション・体育・スポーツに携わる関係者においても、ニュースポーツに対する理解度は、いまだあまり高いことが指摘されている。

本学科は、健康・体育・スポーツ・レクリエーションに関する指導者養成機関である。カリキュラムは、実践的な体育教員を養成する「学校体育領域」、いろんな角度から競技スポーツに携われる優れた人材を養成する「競技スポーツ領域」、医学的知識をふまえた健康づくりのスペシャリストを養成する「健康スポーツ領域」の3分野を中心に構成されている。取得可能な指導者資格は、在学時に取得可能な資格として「高等学校教諭一種免許(保健体育)」「中学校教諭一種免許(保健体育)」「スポーツリーダー」「レクリエーション・インストラクター」「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」, 受験資格が得られる資格として「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」「エアロビックダンスエクササイズインストラクター」「アクアウォーキングインストラクター」「アクアビクスインストラクター」、講習及び試験科目の一部が免除される資格として「アスレティックトレーナー」「競技別指導員」「競技別上級指導員」「競技別コーチ」「競技別教師」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」が準備されている。これらから、本学科学生は、どのような運動・競技レベルやライフステージにある人を対象としたとしても、決して運動嫌いにさせることなく、楽しく満足感が得られるような指導者となるよう心がけなければならないことが分かる。競技志向も重要であろうが、健康志向、レクリエーション志向の人たちへの指導力も強化されなければならない。とりわけ、ニュースポーツに対する理解力や指導力の獲得は、将来、指導者資質としての重要な一部分となることであろう。

本研究は、レクリエーションやスポーツの普及・推進役となりえる期待層といえる本学の健康・スポーツ系学科を専攻する大学・短大生を対象に、ニュースポーツの経験、意味理解、技術、指導力について調査し、これまでどちらかといえば競技志向だった学生たちが、授業経験することによって、志向性はどの方向に向かって行くのかを明らかにするために実施するものである。したがって、学生側の志向性分析と教員側の授業評価が同時に行われる。今回は、初回であり、対象者も大学生のみとなることから、継続される研究の基礎的資料を得ることが中心の目標となる。

方 法

1. 授業の概要と分析の対象

(1) 授業の概要

武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科ならびに同短期大学部健康・スポーツ学科のレクリエーションに関する科目は、「レクリエーション論」、「レクリエーション指導法演習」、「レクリエーション指導法実習」で構成され、上記順で実施されている。ゆえに、学生たちは、基礎理論、基礎実技、応用実技、指導法、相互指導を利用した実践実習までの一連を、3科目を通して段階的に学習している。

「レクリエーション指導法演習」においては、「インディアカ」「ゲートボール」「フライングディスク」の3種目を教員主導形式で、「レクリエーション指導法実習」においては、「キンボール」「グラウンドゴルフ」「シャッフルボード」「ショートテニス」「スポーツチャンバラ」「タッチラグビー」「ダブルダッチ」「チュックボール」「ティーボール」「フリンゴ」「ベタンク」「ユニホック」の12種目を学生相互指導形式で学習する。学習時間は、1種目1時限90分間である。ただし、12種目の相互指導においては、各種目を担当するグループを決定し、そのメンバーは、①種目の「歴史」「開発目的」「用具」「ルール」をプリント化し全員に配布すること、②指導案を作成すること、③円滑な指導をすること、④用具の準備・後片付けをすることが義務づけられている。

(2) 分析の対象

分析の対象者は、大学・短大ともに開講されている「レクリエーション指導法演習」、「レクリエーション指導法実習」の2科目ともに履修し、「レクリエーション指導法実習」の最終授業に参加した学生である。

今回は、初回の研究であり、前期のみの調査実施であることから、調査対象者は、大学文学部健康・スポーツ科学科4年在学生ということになる。「レクリエーション指導法実習」という選択科目を、平成20年度前期に履修した69名の学生が対象者ということとなり、そのうち研究に採用したのは、欠席者、無効回答を除いた有効回答分である(Table 1.)。

Table 1. 分析の対象

NO.	クラス	人	%
1	A	23	45.16
2	B	34	54.84
	N	62	

2. 調査の内容と方法

(1) 調査内容

属性についての質問は、後に、運動経験や競技レベル別の志向性を分析する予定があるため「大学における所属」「所属クラス」「高校・大学時の運動部所属」「高校・大学時の競技レベル」とした。

ニュースポーツに関する質問は、将来指導者となることを意識した内容構成とし、「過去の知識や経験の量」「感じた運動量」「感じた競技性」「ルールや用具に対する理解度」「種目の生活化」「講習会・競技会等への参加希望」「実施技術の獲得量」「指導力の獲得量」「将来の指導現場に対する貢献量」「興味関心を持った種目」「学びたかった種目」とした。

(2) 調査方法

調査は、平成20年度前期「レクリエーション指導法実習」最終授業終了後、集合調査方法を用いた無記名方式で実施した。

3. 分析の内容と方法

ニュースポーツの経験、意味理解、技術、指導力、志向性について、学生側の能力・志向性の分析と教員側の授業評価を目標に、継続研究の基礎的資料を得ることを中心課題とした。したがって、各質問項目の分析に関しては、回答率と順位の算出までにとどめた。

結果と考察

1. 分析対象者の概況

今後の研究において、学生の志向性についての分析を予定している関係から、まず、分析対象者の概況を把握した。

志向性は、経験量や習熟度によって左右される傾向が強いと予測される。よって、高校・大学時代の運動系クラブ所属とその競技レベルについての質問を行った。運動系クラブには、高校時はほぼ全員が、大学時は6割程度が所属していた。競技レベルについては、高校時はどのレベルのものも満遍なく存在しているが、大学時は全国レベルか無所属に分かれる傾向が強かった(Table 2.) (Table 3.)。

大学でクラブ所属している学生の競技レベルは非常に高いが、高校時の競技生活終了から数えて、約4年間競技とは無縁な生活を送っている学生が、4割程度存在していることが明らかとなった。

Table 2. 高校・大学在学時の運動系クラブ所属 N = 62

NO.	カテゴリ	高校		大学	
		人	%	人	%
1	所属	60	96.77	36	58.10
2	無所属	2	3.23	26	41.90

Table 3. 高校・大学時の競技レベル

高校(N=62)				大学(N=62)			
NO.	競技レベル	人	%	NO.	競技レベル	人	%
1	全国大会上位	4	6.45	1	全国大会上位	8	12.90
2	全国大会出場	16	25.81	2	全国大会出場	20	32.26
3	ブロック大会	16	25.81	3	西日本大会	5	8.06
4	県大会	23	37.10	4	関西大会	3	4.84
	無所属	2	3.23		無所属	26	41.94
	不明	1	1.61		不明	0	0.00

2. 受講前の知識や経験

過去の経験量による志向性への影響を考えて、各種目の経験量をたずねた。

実際に経験したことがあると 30%以上のものが回答した種目は、「フライングディスク」「ダブルダッチ」「インディアカ」「ゲートボール」の 4 種目であり、その他の種目の経験量は極端に低かった (Table 4.)。

もっとも回答率が高かった「フライングディスク」を取り上げてみても、数回以上の経験があるものの割合は、30%にも満たない。どの種目についても、ほとんどの学生は、体験的経験にすぎないものと推察された。本授業を履修していなければ、一度も実経験することなく、独学で付け焼刃的な予習のみで指導現場に立っていることが、容易に予見された。

Table 4. 過去の経験量 N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	数回以上	1～2回	見た程度	聞いた程度	知らなかった	不明
1	13	フライングディスク	27.42	22.58	9.68	14.52	25.81	0.00
2	5	ダブルダッチ	22.58	22.58	32.26	4.84	16.13	1.61
3	15	インディアカ	14.52	30.65	16.13	16.13	20.97	1.61
4	14	ゲートボール	9.68	27.42	40.32	11.29	9.68	1.61
5	9	グラウンドゴルフ	8.06	19.35	20.97	20.97	27.42	3.23
6	12	ショートテニス	6.45	6.45	4.84	30.65	37.10	4.84
7	2	タッチラグビー	3.23	4.84	6.45	35.48	50.00	0.00
8	8	ベタンク	3.23	3.23	24.19	14.52	50.00	4.84
9	10	ティーボール	3.23	3.23	16.13	11.29	61.29	4.84
10	7	キンボール	1.61	1.61	4.84	19.35	66.13	6.45
11	11	フリンゴ	1.61	0.00	4.84	1.61	90.32	1.61
12	1	スポーツチャンバラ	0.00	1.61	4.84	24.19	64.52	4.84
13	4	シャッフルボード	0.00	1.61	0.00	4.84	83.87	9.68
14	3	チュックボール	0.00	0.00	1.61	6.45	90.32	1.61
15	6	ユニホック	0.00	0.00	1.61	4.84	87.10	6.45

3. 種目の理解

それぞれの種目を実際に経験して、その運動量、競技性、ルールや用具のことについて、どのように感じたり、どの程度理解することができたのかをたずねた。

運動量については、「ダブルダッチ」「チュックボール」「タッチラグビー」「インディアカ」「キンボール」「スポーツチャンバラ」「ショートテニス」で、それぞれ 50%以上のものが、「ユニホック」「フライ

ングディスク」「フリンゴ」「ティーボール」に30%以上のものが、運動量がやや多い以上に回答していた(Table 5.)。競技性については、「チュックボール」「タッチラグビー」「ショートテニス」「スポーツチャンバラ」において、50%以上のものが、「ティーボール」「インディアカ」「ユニホック」「キンボール」において30%以上のものが、競技性がやや強い以上に回答していた(Table 6.)。ルールや用具の理解については、全種目とも50%以上のものが、まあ理解できた以上に回答していた(Table 7.)。

運動量の多さは、「ダブルダッチ」が群を抜いているが、上位種目と下位種目の違いは、①徒歩レベルで行われるか否か、②ゲーム中の停止時間の多少、に左右されている傾向が強く感じられ、競技性の強弱は、対戦相手の有無によって分別されているようだった。ルールや用具の理解度は、どの種目も全員が高い傾向を示したが、「ダブルダッチ」は「縄跳び」、「ショートテニス」は「テニス」、「グラウンドゴルフ」は「ゴルフ」、「ティーボール」は「野球」、「インディアカ」は「バレーボール」というように、日ごろからいろいろな形ではあろうが、親しんでいる可能性の高い種目の理解度は、向上させやすかったものと推測された。

Table 5. 種目の運動量 N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	とても多い	やや多い	適量	やや少ない	とても少ない	不明
1	5	ダブルダッチ	38.71	45.16	11.29	0.00	0.00	4.84
2	3	チュックボール	33.87	32.26	25.81	3.23	1.61	3.23
3	2	タッチラグビー	29.03	35.48	22.58	6.45	1.61	4.84
4	15	インディアカ	22.58	37.10	25.81	12.90	0.00	1.61
5	7	キンボール	17.74	32.26	22.58	9.68	3.23	14.52
6	1	スポーツチャンバラ	16.13	35.48	19.35	14.52	4.84	9.68
7	12	ショートテニス	12.90	45.16	30.65	3.23	0.00	8.06
8	6	ユニホック	12.90	30.65	33.8	8.06	3.23	11.29
9	11	フリンゴ	9.68	32.26	38.71	9.68	6.45	3.23
10	13	フライングディスク	6.45	22.58	40.32	22.58	4.84	3.23
11	10	ティーボール	4.84	25.81	40.32	19.35	4.84	4.84
12	4	シャッフルボード	1.61	11.29	24.19	14.52	27.42	20.97
13	8	ベタンク	1.61	9.68	17.74	30.65	35.48	4.84
14	9	グラウンドゴルフ	0.00	6.45	19.35	45.16	27.42	1.61
15	14	ゲートボール	0.00	1.61	12.90	58.06	27.42	0.00

Table 6. 種目の競技性 N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	とても強い	やや強い	両方の要素	やや弱い	とても弱い	不明
1	3	チュックボール	35.48	22.58	29.03	11.29	0.00	1.61
2	2	タッチラグビー	33.87	45.16	11.29	4.84	0.00	4.84
3	12	ショートテニス	25.81	41.94	19.35	4.84	0.00	8.06
4	1	スポーツチャンバラ	24.19	33.87	16.13	11.29	6.45	8.06
5	10	ティーボール	19.35	22.58	25.81	19.35	8.06	4.84
6	15	インディアカ	19.35	20.97	40.32	11.29	6.45	1.61
7	6	ユニホック	16.13	20.97	33.87	12.90	3.23	12.90
8	7	キンボール	14.52	19.35	32.26	14.52	9.68	9.68
9	11	フリンゴ	11.29	12.90	38.71	24.19	8.06	4.84
10	14	ゲートボール	6.45	4.84	22.58	35.48	30.65	0.00
11	8	ベタンク	4.84	11.29	24.19	25.81	29.03	4.84
12	4	シャッフルボード	4.84	4.84	37.10	19.35	16.13	17.74
13	5	ダブルダッチ	3.23	32.26	11.29	32.26	16.13	4.84
14	13	フライングディスク	3.23	9.68	29.03	32.26	22.58	3.23
15	9	グラウンドゴルフ	1.61	4.84	38.71	19.35	33.87	1.61

Table 7. ルールや用具の理解

Rank	NO.	種目	よく	まあ	混在	あまり	全く	不明
1	5	ダブルダッチ	51.61	33.87	4.84	3.23	1.61	4.84
2	12	ショートテニス	46.77	29.03	12.90	3.23	0.00	8.06
3	9	グラウンドゴルフ	43.55	35.48	16.13	3.23	0.00	1.61
4	10	ティーボール	43.55	27.42	20.97	3.23	0.00	4.84
5	15	インディアカ	37.10	50.00	8.06	3.23	0.00	1.61
6	14	ゲートボール	35.48	51.61	9.68	3.23	0.00	0.00
7	13	フライングディスク	35.48	46.77	12.90	3.23	0.00	1.61
8	8	ベタンク	35.48	46.77	9.68	3.23	0.00	4.84
9	7	キンボール	35.48	37.10	11.29	3.23	0.00	12.90
10	1	スポーツチャンバラ	35.48	33.87	17.74	4.84	0.00	8.06
11	11	フリンゴ	30.65	45.16	14.52	3.23	0.00	6.45
12	6	ユニホック	27.42	35.48	20.97	3.23	0.00	12.90
13	4	シャッフルボード	25.81	32.26	17.74	8.06	0.00	16.13
14	3	チュックボール	19.35	40.32	25.81	8.06	3.23	3.23
15	2	タッチラグビー	19.35	38.71	30.65	6.45	0.00	4.84

4. 生活化や向上心への影響

最も志向性の変化に影響を与えるだろう「興味を持った種目」「日常生活への導入」「講習会・競技会・指導者研修会等への参加希望」について、その種目と強さをたずねた。

興味を持った種目については、「インディアカ」「ダブルダッチ」「ティーボール」「チュックボール」「キンボール」に、30%前後のものが回答していた(Table 8.)。日常生活への導入については、「インディアカ」「ショートテニス」に50%以上のものが、「フライングディスク」「ダブルダッチ」「ティーボール」「キンボール」「フリンゴ」に30%以上のものが、できれば導入したい以上に回答していた(Table 9.)。講習会・競技会・指導者研修会等への参加希望については、「インディアカ」「ダブルダッチ」「ショートテニス」に30%以上のものが、できれば参加したい以上に回答していた(Table 10.)。

3項目ともに回答率上位であった種目は、「インディアカ」「ダブルダッチ」であり、その種目特性を

Table 8. 興味をもった種目

Rank	NO.	種目	人	%
1	15	インディアカ	21	33.87
2	5	ダブルダッチ	19	30.65
3	10	ティーボール	19	30.65
4	3	チュックボール	18	29.03
5	7	キンボール	18	29.03
6	11	フリンゴ	16	25.81
7	1	スポーツチャンバラ	15	24.19
8	12	ショートテニス	13	20.97
9	8	ベタンク	9	14.52
10	2	タッチラグビー	7	11.29
11	6	ユニホック	5	8.06
12	13	フライングディスク	5	8.06
13	9	グラウンドゴルフ	3	4.84
14	14	ゲートボール	3	4.84
15	4	シャッフルボード	2	3.23
		不明	3	4.84
N			62	

Table 9. 日常生活への導入

N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	ぜひしたい	できれば	状況による	あまり	まず無い	不明
1	15	インディアカ	25.81	25.81	29.03	8.06	9.68	1.61
2	13	フライングディスク	22.58	19.35	35.48	8.06	12.90	1.61
3	5	ダブルダッチ	19.35	20.97	29.03	8.06	9.68	3.23
4	10	ティーボール	16.13	19.35	29.03	11.29	19.35	4.84
5	12	ショートテニス	14.52	35.48	24.19	9.68	8.06	8.06
6	7	キンボール	14.52	16.13	27.42	12.90	19.35	9.68
7	11	フリング	12.90	22.58	33.87	12.90	14.52	3.23
8	1	スポーツチャンバラ	11.29	17.74	25.81	12.90	27.42	4.84
9	8	ベタンク	9.68	16.13	33.87	19.35	16.13	4.84
10	9	グラウンドゴルフ	9.68	14.52	40.32	14.52	19.35	1.61
11	3	チュックボール	8.06	19.35	40.32	12.90	17.74	1.61
12	2	タッチラグビー	6.45	12.90	45.16	12.90	20.97	6.45
13	6	ユニホック	6.45	11.29	45.16	14.52	16.13	9.68
14	14	ゲートボール	1.61	17.74	41.94	19.35	19.35	0.00
15	4	シャッフルボード	1.61	14.52	33.87	12.90	20.97	16.13

Table 10. 講習会・競技会・指導者研修会等への参加希望

N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	ぜひしたい	できれば	状況による	あまり	まず無い	不明
1	15	インディアカ	12.90	22.58	33.87	17.74	11.29	1.61
2	5	ダブルダッチ	11.29	24.19	35.48	12.90	14.52	1.61
3	12	ショートテニス	9.68	27.42	30.65	11.29	14.52	6.45
4	13	フライングディスク	9.68	19.35	24.19	29.03	17.74	0.00
5	11	フリング	9.68	16.13	35.48	20.97	14.52	3.23
6	7	キンボール	8.06	11.29	32.26	24.19	14.52	9.68
7	1	スポーツチャンバラ	6.45	11.29	22.58	29.03	25.81	4.84
8	10	ティーボール	4.84	17.74	38.71	19.35	14.52	4.84
9	2	タッチラグビー	4.84	8.06	41.94	29.03	14.52	1.61
10	3	チュックボール	3.23	17.74	40.32	24.19	12.90	1.61
11	6	ユニホック	3.23	17.74	37.10	20.97	12.90	8.06
12	8	ベタンク	3.23	9.68	38.71	25.81	17.74	4.84
13	14	ゲートボール	3.23	8.06	38.71	25.81	24.19	0.00
14	9	グラウンドゴルフ	1.61	12.90	38.71	20.97	24.19	1.61
15	4	シャッフルボード	1.61	9.68	27.42	30.65	17.74	12.90

考えると、①比較的小人数で出来ること、②大きな力を必要としないこと、③移動範囲が少なく小スペースで行えること、④用具が大がかりでないこと、⑤全員の運動量が比較的高く確保できること、⑥奥が深く継続性が期待できること、⑦適度な競技性を有すること、等の特徴が上げられた。他の項目の回答結果からも、7特徴から外れる種目についての志向性は薄いことが推察された。

5. 指導現場への導入

今回受講した授業やこれまでの経験で、どのくらいの指導力が身についたのか、また、各種目は将来の指導現場にどのくらい役立ちそうなのかについてたずねた。

これまで学んだことによって、指導現場で見本が見せられるようになったのか、その自信がついたのかについては、「インディアカ」「ショートテニス」「ティーボール」「スポーツチャンバラ」「ベタンク」「グラウンドゴルフ」「キンボール」「フリング」「ゲートボール」「フライングディスク」に50%以上のものが、「ダブルダッチ」「チュックボール」「シャッフルボード」「ユニホック」「タッチラグビー」に30%以上のものが、ほぼ可能以上に回答していた(Table 11.)。指導現場で実際に指導を担当する自信があるかについては、「インディアカ」「ティーボール」「ショートテニス」「フライングディスク」「フリ

Table 11. 指導現場における見本の実施

N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	可能	ほぼ可能	部分的に	あまり	まず無理	不明
1	15	インディアカ	29.03	37.10	25.81	6.45	0.00	1.61
2	12	ショートテニス	25.81	37.10	19.35	9.68	1.61	6.45
3	10	ティーボール	24.19	30.65	29.03	9.68	1.61	4.84
4	1	スポーツチャンバラ	24.19	30.65	24.19	9.68	4.84	6.45
5	8	ペタンク	20.97	46.77	12.90	12.90	1.61	4.84
6	9	グラウンドゴルフ	20.97	35.48	30.65	9.68	1.61	1.61
7	5	ダブルダッチ	19.35	29.03	24.19	11.29	11.29	4.84
8	7	キンボール	17.74	43.55	17.74	9.68	1.61	9.68
9	11	フリンゴ	17.74	35.48	29.03	9.68	3.23	4.84
10	14	ゲートボール	16.13	45.16	29.03	9.68	0.00	0.00
11	13	フライングディスク	16.13	40.32	35.48	4.84	3.23	0.00
12	3	チュックボール	14.52	27.42	33.87	16.13	4.84	3.23
13	4	シャッフルボード	12.90	32.26	20.97	16.13	4.84	12.90
14	6	ユニホック	8.06	24.19	33.87	19.35	4.84	9.68
15	2	タッチラグビー	6.45	29.03	82.26	25.81	3.23	1.61

Table 12. 指導現場における実際指導

N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	可能	ほぼ可能	部分的に	あまり	まず無理	不明
1	15	インディアカ	27.42	33.87	29.03	4.84	3.23	1.61
2	10	ティーボール	25.81	29.03	30.65	6.45	3.23	4.84
3	12	ショートテニス	25.81	27.42	27.42	11.29	1.61	6.45
4	1	スポーツチャンバラ	22.58	19.35	29.03	12.90	9.68	6.45
5	13	フライングディスク	20.97	35.48	30.65	9.68	3.23	0.00
6	11	フリンゴ	20.97	32.26	29.03	9.68	3.23	4.84
7	5	ダブルダッチ	20.97	24.19	20.97	16.13	14.52	3.23
8	7	キンボール	17.74	35.48	24.19	8.06	4.84	9.68
9	8	ペタンク	17.74	33.87	24.19	14.52	4.84	4.84
10	9	グラウンドゴルフ	17.74	32.26	35.48	11.29	1.61	1.61
11	14	ゲートボール	17.74	27.42	35.48	16.13	3.23	0.00
12	2	タッチラグビー	12.90	17.74	38.71	22.58	6.45	1.61
13	4	シャッフルボード	11.29	32.26	27.42	9.68	6.45	12.90
14	3	チュックボール	9.68	25.81	35.48	16.13	8.06	4.84
15	6	ユニホック	9.68	25.81	29.03	19.35	6.45	9.68

ンゴ」「キンボール」「ペタンク」「グラウンドゴルフ」に 50%以上のものが、「スポーツチャンバラ」「ダブルダッチ」「ゲートボール」「タッチラグビー」「シャッフルボード」「チュックボール」「ユニホック」に 30%以上のものが、ほぼ可能以上に回答していた (Table 12.)。将来の指導現場でどの程度役立つと予測できるのかについては、「インディアカ」「フライングディスク」「ダブルダッチ」「ショートテニス」「ティーボール」「ゲートボール」「キンボール」「グラウンドゴルフ」「フリンゴ」「ペタンク」「スポーツチャンバラ」「タッチラグビー」「チュックボール」に 50%以上のものが、「ユニホック」「シャッフルボード」に 30%以上のものが、ほぼ可能以上に回答していた (Table 13.)。

種目によっては、見本は見せられるが指導は難しい、逆に、見本を見せるのは難しいが指導はある程度できるという両面が存在することが明らかとなった。ただし、指導現場における貢献量は高く評価されており、1回の授業のみでも、指導を行う際のヒントは十分に提供できているものと判断された。

Table 13. 指導現場における貢献量

N = 62 (%)

Rank	NO.	種目	とても	かなり	現場による	あまり	まず無い	不明
1	15	インディアカ	43.55	29.03	19.35	3.23	3.23	1.61
2	13	フライングディスク	37.10	38.71	12.90	8.06	3.23	0.00
3	5	ダブルダッチ	37.10	35.48	19.35	3.23	1.61	3.23
4	12	ショートテニス	35.48	37.10	12.90	4.84	3.23	6.45
5	10	ティーボール	33.87	32.26	22.58	4.84	3.23	3.23
6	14	ゲートボール	30.65	32.26	27.42	6.45	3.23	0.00
7	7	キンボール	25.81	29.03	30.65	3.23	3.23	8.06
8	9	グラウンドゴルフ	24.19	38.71	25.81	4.84	4.84	1.61
9	11	フリンゴ	24.19	35.48	27.42	3.23	4.84	4.84
10	8	ベタンク	24.19	27.42	30.65	4.84	8.06	4.84
11	1	スポーツチャンバラ	24.19	27.42	20.97	12.90	8.06	6.45
12	6	ユニホック	20.97	29.03	32.26	4.84	4.84	8.06
13	2	タッチラグビー	19.35	41.94	20.97	12.90	3.23	1.61
14	3	チュックボール	17.74	40.32	22.58	8.06	6.45	4.84
15	4	シャッフルボード	17.74	20.97	33.87	11.29	4.84	11.29

まとめ

本学科学学生におけるニュースポーツの経験、意味理解、技術、指導力について、授業経験後、志向性はどの方向に向かって行くのかを明らかにするために実施した。特に今回は初回であり、継続される研究の基礎的資料を得ることが目標とされた。結果から以下のことを指摘し、まとめとする。

1. 大学におけるクラブの所属・無所属は、6対4であった。クラブ所属者の競技レベルは、その多くが全国レベルであった。
2. 過去の経験は、どの種目についても、あっても体験的経験にすぎないものであった。
3. 運動量の上位種目と下位種目の別は、①徒歩レベルで行われるか否か、②ゲーム中の停止時間の多少の違いにあった。競技性は、対戦相手の有無によって分別されていた。理解度は、全員が高い傾向を示したが、日ごろから親しみのある種目は、より向上させやすいものと推測された。
4. 志向性に影響を与える種目特性は、①比較的小人数で出来ること、②大きな力を必要としないこと、③移動範囲が少なく小スペースで行えること、④用具が大がかりでないこと、⑤全員の運動量が比較的高く確保できること、⑥奥が深く継続性が期待できること、⑦適度な競技性を有すること、等であった。
5. 1回の授業で、見本と指導の両面の技術獲得は難しい部分があるが、指導を行う際のヒントは十分に提供できていた。

文 献

- 1) 神野賢治・築山泰典・藤井雅人、体育・スポーツ系学生の「ニュースポーツ志向性」とその要因検討(1)－カリキュラムを通した“変化”に着目して－、(財)日本レクリエーション協会レジャー・レクリエーション研究所自由時間研究紀要, 32, 44 (2008)
- 2) 師岡文男、スポーツ・フォア・オール国際フェア'94, 体育科教育1月号, 46-47 (1995)
- 3) 仲野隆士、ニュースポーツの人口動態, 体育の科学, 56, No.5 (2006)
- 4) 松田稔, 軽スポーツ, YMCA 出版, (1980)
- 5) 北川勇人, レクリエーションスポーツ種目全書, (株)遊戯社, (1984)
- 6) 北川勇人, ニュースポーツ事典, (株)遊戯社, (1991)

(中村)

- 7) 前川峰雄・江橋慎四郎・寒河江善秋・小川長治郎, レクリエーション事典, (株)不昧堂出版, (1971)
- 8) (財)日本レクリエーション協会, レクリエーション支援の基礎―楽しさ・心地よさを活かす理論と技術―, (財)日本レクリエーション協会, (2007)